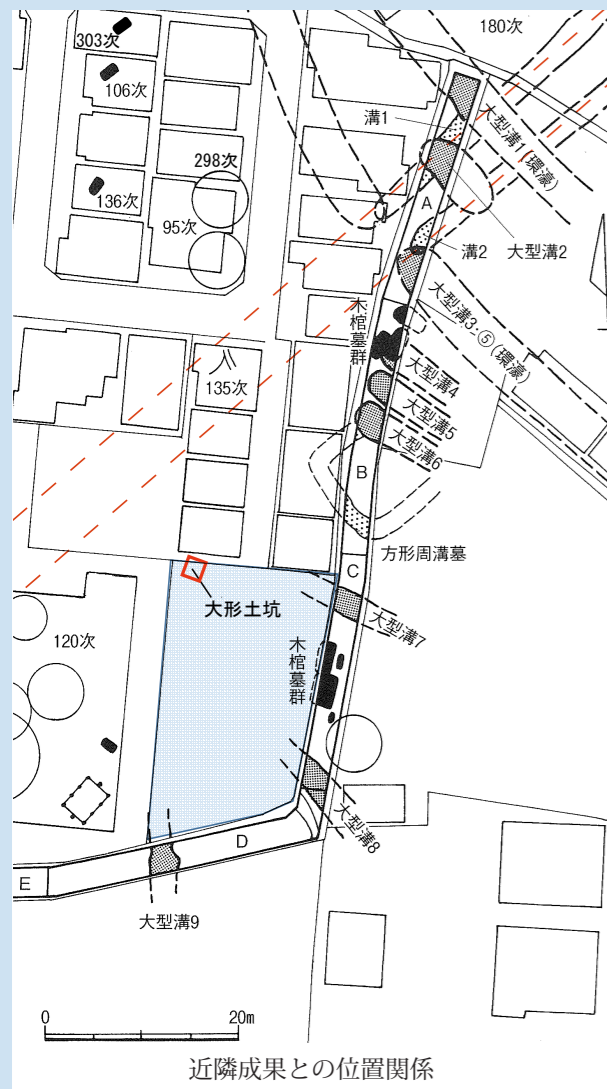


# 加茂遺跡第 322 次調査 現地説明会資料

令和 6 年 3 月 9 日 (土)

発行：川西市生涯学習課



## ◆大形土坑

調査区北西端で、一辺 2 m 超、深さ約 1.6m の大形の方形土坑を検出しました。底の一部は直径約 1 m、深さ約 20cm の円形状に掘りくぼめられており、中には地山の砂礫をほぐしたものが堆積していました。

柱根や抜き取り痕は確認できませんが、柱当たりを整地した大型掘立柱の柱跡の可能性も考えられます。建物だった場合は、北側に対となる柱跡が見つかるはずなので、今後の調査に期待が寄せられます。



## ◆水銀朱をまいた木棺墓

長辺約 3 m、短辺約 1 m、深さ約 60cm の長方形の土壇で、垂直に掘り込んでいます。北側の底付近から、直径 30cm ほどの鮮やかな赤色をした部分が見つかりました。その箇所を蛍光 X 線分析にかけたところ、水銀が検出されました。赤色の部分は水銀朱であったことがわかり、底板に水銀朱をまいた木棺墓であると考えられます。ただし、土層では明確な棺の痕跡は確認できず、底面に小口の痕跡も見当たりませんでした。他の遺跡の事例から、遺体の頭部周辺に水銀朱がまかれていたと考えられます。水銀朱の産地は近隣では徳島県や奈良県、三重県のもの知られ、交易によってもたらされたと考えられます。

加茂遺跡の木棺墓から水銀朱が見つかるのは初めてのことで、弥生時代の墓制を考えるうえでの貴重な資料です。近隣の事例では、尼崎市田能遺跡でも木棺墓から朱が見つかっています。



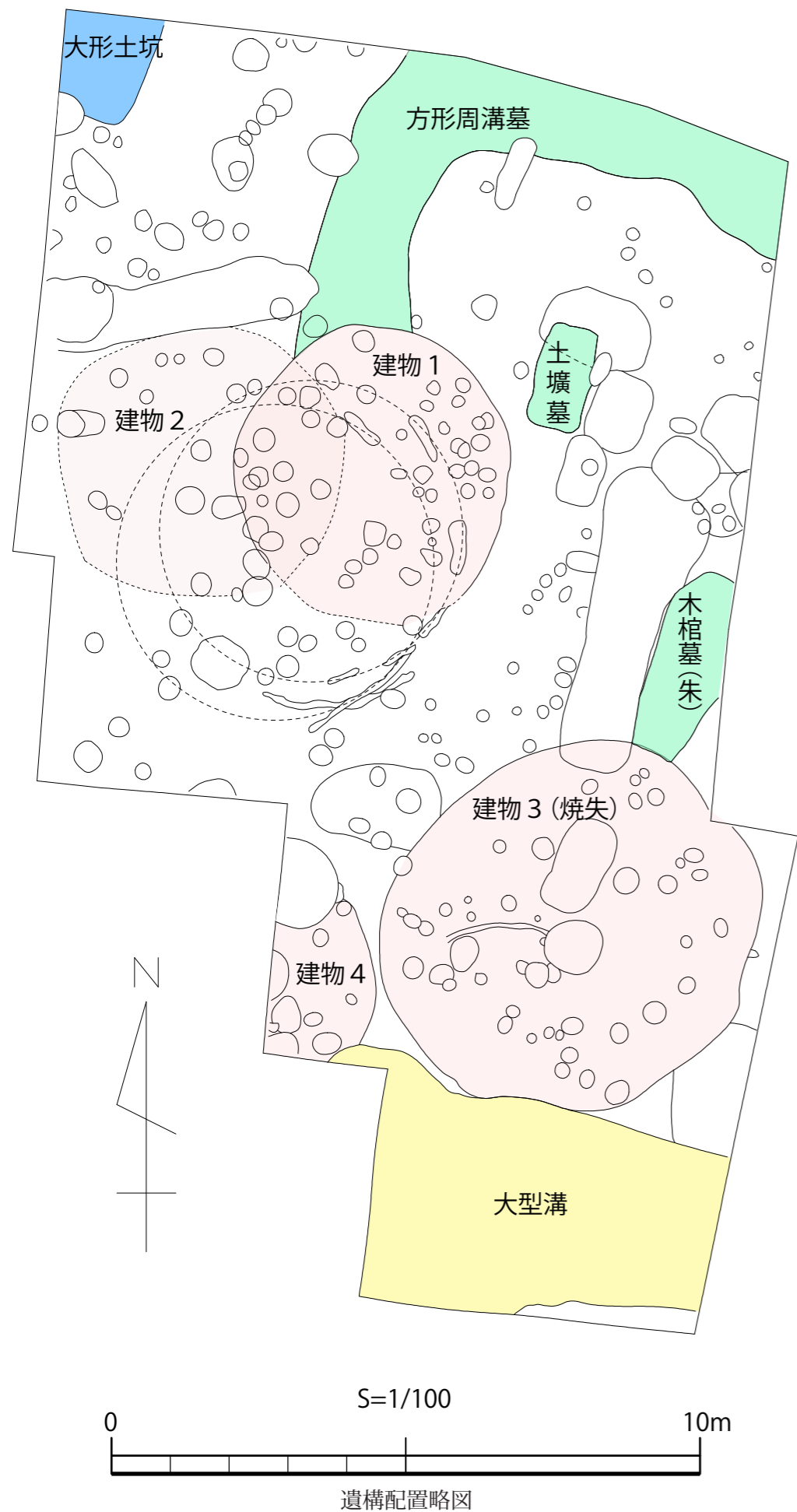
## ◆加茂遺跡について

加茂遺跡は、猪名川の右岸に形成された平野を見下ろす標高約 40 m の台地の先端に位置します。明治 44 年 (1911) に台地東側の崖下から栄根銅鐸が偶然発見され、大正 4 年 (1915) には鴨神社周辺で多数の土器や石器が見つかり、遺跡の存在が明らかになりました。

遺跡の最盛期となる弥生時代中期には東西約 800 m、南北約 400 m の約 20ha に及ぶ近畿でも有数の大規模集落に発展します。遺跡の東部は環壕に囲われており、中央では方形区画を持つ大型掘立柱建物が見つかるなど集落の中心的性格を有していることがわかります。環壕には入り口通路が設けられていました。また、東側の崖斜面にも環壕を掘りこんでおり、防御性を意識した造りになっています。遺跡の西側には環壕外に南北の居住区が存在し、それを取り巻くように墓域が広がっています。

弥生時代の集落の様相がよくわかる遺跡であり、平成 12 年 (2000) には遺跡の一部が国の史跡に指定されました。

今回の調査地点は、環壕入り口を出てほど近く、環壕外南部居住区にあたります。過去の近隣の調査成果では、竪穴建物や木棺墓などがみつかっています。



### ◆土壙墓

長辺約 1.7m、短辺約 0.9m で、方形周溝墓の主体部の可能性も考えられる墓壙です。木棺墓の可能性も考えられましたが、土層観察では棺の痕跡は確認できませんでした。組み合わせ式木棺の小口の痕跡も見られません。

土壙墓の直上で確認された土坑からは底部穿孔土器が出土しており、本土壙墓に伴う供献土器と考えられます。



### ◆大型溝

調査区の南側でみつかった溝は、幅が約 3.3m もある大型のもので、環壕の可能性も考えられますが、これまでにみつかった環壕とは軸線が一致しません。何らかの区画のための溝かもしれません。



### ◆竪穴建物

今回の調査では、竪穴建物が複数棟検出されました。その他にも一部だけが検出された周壁溝が何本もあるため、同じ場所で何度も建て替えていたことがわかります。大きさはいずれも直径 5～6 m の円形です。

竪穴建物 2 の埋土からは、約 8 cm の性格不明の土製品が出土しました。くびれた形状から、人の形や剣の柄の形を模したものの可能性が考えられます。



### ◆焼失竪穴建物

調査区の中央で検出された直径約 6 m の円形の竪穴建物は、床面に炭化した木材や赤く変色した焼土が見つかりました。垂木などの柱材が燃えた痕跡と考えられ、火災によって焼失した建物であることがわかります。

### ◆調査成果

今回の調査では、焼失したものを含めた竪穴建物が 4 棟以上、方形周溝墓 1 基、水銀朱をまいた木棺墓や土壙墓 2 基、大型溝を含めた溝 3 本、大型掘立柱の柱跡の可能性のある大形土坑 1 基の他、多数の柱穴や土坑が検出されました。

遺構の先後関係を観察すると、お墓をつぶして家を建てていたことがわかります。建物の時期は加茂遺跡の規模が最も大きくなる弥生時代中期後半であり、人口増加に伴って居住域が拡大していく様子がうかがえます。

また、弥生時代の焼失竪穴建物や朱をまいた木棺墓、一辺が 2 m を超す大形の土坑はいずれも加茂遺跡で初めて発見されたものです。

※内容は調査途中のものであり、今後の検討で変更される場合があります。